

# 建設業の「心温まる物語」紹介

## NPO主宰者が冊子を編著

NPO法人の建設経営者倶楽部KK C(名古屋市中区)で理事長を務める降旗達生氏(ハタコンサルタント代表取締役)が編著に当たった冊子「建設業で本当にあった心温まる物語」。現場などで働く約500人のエピソードからえりすぐった61編が、建設業の魅力を分かりやすく伝える。業界の重要課題である人材確保に「役買おつと、ライフワークとして冊子作りに取り組み、業界のPRに力を入れる降旗氏に話を聞いた。

(編集部・岩本英司)

### 採用の重要性を痛感

「地元の建設会社で数々の建物の

採用の重要性を痛感した職人」「左官職人だった父親がデ

活動の中で痛感した業界の課題が

施工に携わってきた同郷の先輩」「下水道工事中に発生した湧き水で

「互いに刺激し合い、学び合える場をつくりたい」と07年にNPO法人を設立した。現在、中部や関西エリアの約70社を会員に抱え、定例会で経営計画を発表し合うなど相互研

## スコープ

### 広報戦略

ザインしたタイトルを張った自慢のお風呂場」…。冊子には、思わずほろりとさせられる物語がいくつもつづられてる。

建設業界で働く人たちによる何気ない日常のエピソード。それを冊子にまとめて若い人たちに読んでもらうことで、「少しでも建設業を振り向いてもらいたいと考えた」と降旗氏は編著に当たった思いを話す。中小建設会社を主なターゲットとする技術コンサルタンとして現場指導や技術者研修に取り組み中、「互いに刺激し合い、学び合える場をつくりたい」と07年にNPO法人を設立した。現在、中部や関西エリアの約70社を会員に抱え、定例会で経営計画を発表し合うなど相互研

「人をいかに採用するか」だったといふ。少子化で若者が減っている上に、高校や大学で土木や建築を学んでも、建設業に就職しては限

「3K(きつい、汚い、危険)など敬遠される建設業で働く人たちの中には、やる気を持って働いている人がたくさんいる。そうした人たちのポジティブな話をまとめることが、若者の建設業への入職を促進することに役立つのではないか」

### 試読版や動画も制作

NPOの会員に声を掛け、研修をした技術者たちにも課題として与え、さらに自らも取材する。こうして建設の仕事にまつわるエピソードを集める作業が始まった。集まったのは計500編の物語。その中から厳選を重ねて61編に絞り込み、一般の人たちにも伝わる言葉に書き換えるなどの作業を経て一冊にまとめた。

冊子が出来上がったのは4月。工業高校や高等専門学校などに声を掛け、若者に建設業の魅力を知ってもらうためのPR活動を始めた。生徒や学生に少しでも興味を持ってもらえよう、数編の物語を収めた試読版や動画も作った。

建設業で本当にあった心温まる物語



編・著 ふるはた たつお



ハタ教育出版から刊行 (B5判51分。1部500円)

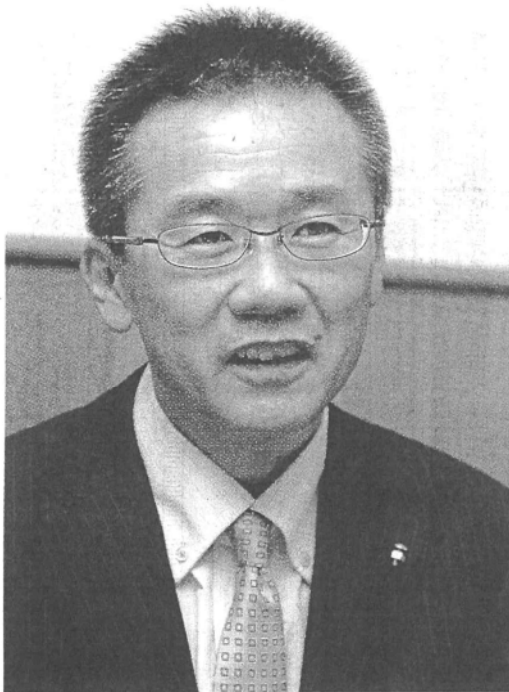
## 人材確保・育成に貢献

### 子どもが就きたい仕事に

業界関係者に冊子の内容を講演する機会にも恵まれ、その中から中部建設青年会議(松岡伸年会長)と共同で新たな冊子をつくる活動も始まった。10月24、25日に名古屋市中企業振興会館で開かれる「建設技術フェアin中部」の会場で配布できるように制作作業が進行中だ。

「建設業界がどんなものかという知らない人にも知ってもらうためにも、ライフワークとして冊子づくりに取り組んでいきたい」と話す降旗氏。「心温まる物語」が本になって書店に並びようとした際の希望も抱く。願いは「子どもが就きたい仕事のベストテンに建設エンジニアが入ること」といふ。

東日本大震災をはじめ災害の被災地での復旧活動や復興事業、国土強靱(きょうじん)化政策などの効果で、建設業界や公共事業に対する逆風は変わりつつある。「資源の少ない日本は『技術立国』を目指すしかない。建設業界に追い風が吹き始めている今をチャンスと捉え、活動を一段と広げていきたい」。そんな思いを胸に降旗氏はきょうも各地を飛び回る。



降旗 達生氏

(ふるはた・たつお) 83年阪大工学部卒、熊谷組入社。技術者として、ダム、トンネル、橋梁などの大型工事に参画。95年の阪神大震災で大きな被害を受けた故郷の神戸市の惨状を目の当たりにしたのをきっかけに、建設技術コンサルタント業を起業した。建設技術者研修4万人、現場指導1000件超の実績を持つ。建設業向けメールマガジンのほか、著書も多数。52歳。